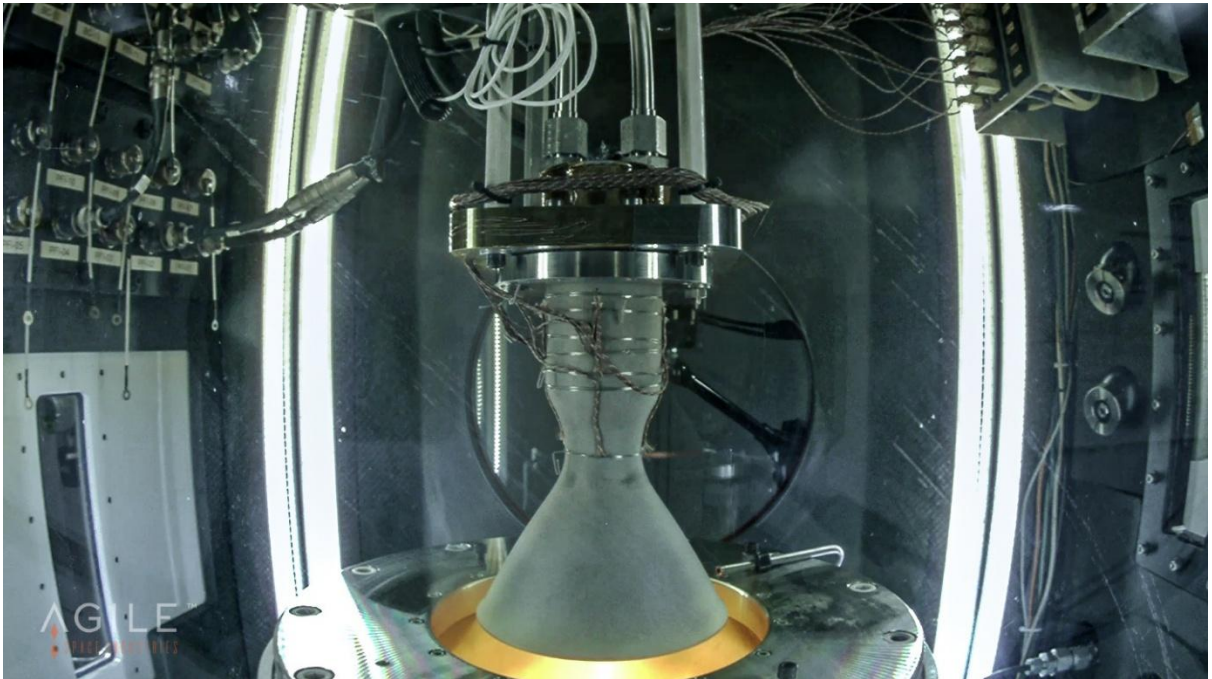


PRESS RELEASE

2025 年 5 月 9 日
株式会社 ispace

ispace-U.S.、Agile と共同で新型エンジン「VoidRunner」を発表 ミッション 3 の打ち上げは 2027 年以降に変更

株式会社 ispace（東京都中央区、代表取締役：袴田武史、以下 ispace）（証券コード [9348](#)）は、当社米国法人である ispace technologies U.S., inc（以下 ispace-U.S.）が、チャールズ・スターク・ドレイパー研究所（以下ドレイパー）との連携のもと、ミッション 3 において、米国コロラド州デュランゴに拠点を置く Agile Space Industries（以下 Agile）とともに開発した高推力・簡素化エンジン「VoidRunner」を APEX 1.0 ランダーに搭載することを本日、発表しましたのでお知らせいたします。



「VoidRunner」のエンジン燃焼試験をコロラド州デュランゴの試験施設で実施している画像

これに先立つ内部検討の結果、ドレイパーを中心としたチームは Agile と ispace-U.S.が共同で開発する新型エンジン「VoidRunner」の適用が、ミッション 3 における技術上・スケジュール上のリスクを最小化する最適なソリューションであると判断しました。当初のエンジン案から「VoidRunner」への仕様変更により、エンジン部品点数は 4 分の 1 に削減され、結果的に機体構造の大幅な簡素化が可能となります。一方でこれに伴う機体設計の再調整が必要となることから、ミッション 3 の打ち上げ時期を 2026 年から 2027 年以降へと変更することにいたしました。

ispace-U.S.が独自開発したバルブにより「VoidRunner」エンジンのスロットル制御を実現し、高い信頼性を持った推進システムの構築が可能となり、ミッション成功の確度がより一層高まることが期待されます。

当初、APEX 1.0にはAgileのA2200エンジンを搭載する予定でしたが、社内検討の結果、予定されていた調達スケジュール内での供給が難しいことが判明しました。その後、ispace-U.S.に加え、ドレイパー、およびAgileの間で複数回にわたり協議を行い、簡素化した構成の新型エンジン「VoidRunner」を開発する方針を決定しました。

「VoidRunner」は、既存のエンジンアーキテクチャをベースに推力とノズル効率を最適化し、APEX 1.0向けに再構成されたものです。このエンジンはすでにAgileの真空環境下でのエンジン燃焼試験を通じて検証され、設計の簡素化とシステムの信頼性向上が実証されています。また、推進系のサブシステムの簡素化は開発スケジュールの実現性を大きく向上させました。今後、「VoidRunner」のクリティカル・デザイン・レビュー（CDR）を2025年秋に予定しており、その後、グローバルCDRを2025年冬に実施予定です。

■ ispace-U.S. CEO エリザベス・クリストのコメント

「今回の変更は、単なる戦略的変更ではなく、私たちのミッションへの揺るぎないコミットメントの表れです。私たちは様々な角度から検証を行い、そこから学び、ミッション成功に向けた最善策を導き出しました。新しい推進システムと新たに強化された Agile との連携に、強い自信を持っています。」

■ Agile Space Industries CEO クリス・ピアソンのコメント

「『VoidRunner』は性能要件を満たすだけでなく、長期的な効率性向上にも寄与するエンジンです。私たちの技術が、ispace のミッション 3 成功に最大限に貢献できるようコミットいたします。」

■ ispace technologies, U.S., inc (<https://ispace-us.com>) について

コロラド州デンバー郊外に位置する、株式会社 ispace の US 法人。地球から月への輸送サービスを政府及び民間顧客に提供する米国の月開発企業。月の資源活用に着目し、月、および地球と月の間において人類の生活圏、経済圏を構築することを目指している。ispace U.S.は米国で設計・製造・打ち上げが行われる APEX1.0 ランダー開発の中心地であると同時に、北米における事業の拠点としての役割を担う。

■ 株式会社 ispace (<https://ispace-inc.com/jpn/>)について

「Expand our planet. Expand our future. ~人類の生活圏を宇宙に広げ、持続性のある世界へ~」をビジョンに掲げ、月面資源開発に取り組んでいる宇宙スタートアップ企業。日本、ルクセンブルク、アメリカの 3 拠点で活動し、現在約 300 名のスタッフが在籍。2010 年に設立し、Google Lunar XPRIZE レースの最終選考に残った 5 チームのうちの 1 チームである「HAKUTO」を運営した。月への高頻度かつ低コストの輸送サービスを提供することを目的とした小型のランダー（月着陸船）と、月探査用のローバー（月面探査車）を開発。民間企業が月でビジネスを行うためのゲートウェイとなることを目指し、月市場への参入をサポートするための月データビジネスコンセプトの立ち上げも行う。2022 年 12 月 11 日には SpaceX の Falcon 9 を使用し、同社初となるミッション 1 のランダーの打ち上げを完了。続くミッション 2 は 2025 年 1 月 15 日に打ち上げを完了し、最短 2025 年 6 月 6 日に、月面着陸へ再挑戦の予定。ミッション 3 およびミッション 4（旧ミッション 6）は 2027 年に打ち上げを行う予定。

ミッション 1 の目的は、ランダーの設計および技術の検証と、月面輸送サービスと月面データサービスの提供という事業モデルの検証および強化であり、ミッション 1 マイルストーンの 10 段階の内 Success8 まで成功を収めることができ、Success9 中においても、着陸シーケンス中のデータも含め月面着陸ミッションを実現する上での貴重なデータやノウハウなどを獲得することに成功。ミッション 1 で得られたデータやノウハウは、後続するミッション 2 へフィードバックされている。更にミッション 3 では、より精度を高めた月面輸送サービスの提供によって NASA が行う「アルテミス計画」にも貢献する計画。

ⁱ 2025 年 5 月時点の想定